小青竜湯の開始直後より好酸球が減少し，5ヶ月後から皮膚症状の改善を認めたアトピー性皮膚炎の1例

Sho-seiryu-to improved skin itching and atopic dermatitis after long-term administration

○村田 幸治¹⁾²⁾³⁾，鈴木 信孝²⁾，亀井 勉¹⁾²⁾

- 1) 島根難病研究所，2) 金沢大学大学院医学系研究科補完代替医療学，
3) 金沢大学大学院医学系研究科がん医科学専攻分子移植学分野

Sho-seiryu-to [ETK-19] is known to be effective against allergic diseases, and has recently been used on atopic dermatitis (AD). We observed the effects of ETK-19 on a patient with AD who, despite using steroid drugs, had skin itching and eruption, elevated serum IgE levels and peripheral eosinophilia. Despite an improvement of the peripheral eosinophilia, the skin condition was not improved after 5 months. Then, after 7 months, skin itching and eruption had almost disappeared. We suggest that long-term (more than several months) administration of ETK-19 could be effective for a patient with AD whose peripheral eosinophil level has decreased in advance.

【目的】

アトピー性皮膚炎の治療には，炎症に対する外用療法としてステロイド剤が使用され，全身療法として掻痒の軽減と痒みによる掻破のための悪化を予防する目的で抗ヒスタミン剤などが使用されている（日皮会誌：ガイドライン2004）が，掻痒のコントロールが困難なことが少なくない。一方，小青竜湯は，アレルギー性鼻炎や気管支喘息などのアレルギー疾患に対して用いられ，末梢単核球のIgE産生や好酸球機能への抑制作用があることが報告されている。われわれは，小青竜湯（テイコク小青竜湯エキス細粒[7.5g/日]）→5ヶ月後に薬局の都合にてカネボウ小青竜湯エキス細粒[6.0g/日]に変更，以下ETK-19）を開始直後から好酸球数（Eos）が減少を示していたため投与を続けたところ，5ヵ月後から徐々に掻痒が軽減し，7ヶ月後には皮疹の軽快も認められたアトピー性皮膚炎の症例を経験したので報告する。

【症例】

病歴：26歳女性。23歳頃から指先に皮疹が出現。24歳時には両下肢，25歳時には下腹部と両肘にも皮疹が出現。指先と両下肢に著明な掻痒を自覚。23歳時から近医皮膚科を受診しステロイド外用剤を使用していたが，皮疹と掻痒は改善を認めなかった。

経過：26歳時に初診。両下肢前面と指先にやや湿潤した皮疹が散在し，検査所見では，血清IgE値（RIST）207IU/ml，Eos 14%（826/ μ l）を認め，ETK-19を開始したところ，当初皮膚症状に改善を認めなかったが，Eosは1ヵ月後6%（336/ μ l），3ヵ月後8%（376/ μ l），5ヵ月後2%（128/ μ l）と著明に減少した。以後，5ヶ月後からは両下肢の掻痒が軽減し，7ヵ月後には指先と両下肢の掻痒がほぼ消失し両下肢皮疹も軽快した。経過中，他の抗アレルギー剤やステロイド外用剤などは使用していない。

【結論】

アトピー性皮膚炎の漢方治療として，最近ではETK-19の使用報告も散見される。これまでの報告では，ETK-19開始後の数週間で皮膚症状の改善を認めた報告や，3～4ヶ月の投与にて皮膚症状の改善を認めない場合には投与を再検討すべきとの指摘もみられる。今回の症例から，ETK-19開始後に臨床症状がすぐには改善しない場合でも，Eosに減少を認めた場合には，数ヶ月以上の投与によってETK-19が有効性を示す可能性が考えられた。